

美川 圭教授 略歴・主要研究業績

略 歴

学歴

- 一九五七年三月五日 東京都港区麻布飯倉片町三二番地に生まれる
- 一九六九年三月 港区立麻布小学校卒業
- 一九七五年三月 私立麻布学園高等学校卒業
- 一九七七年四月 京都大学文学部入学
- 一九八一年三月 京都大学文学部史学科国史学専攻卒業
- 一九八三年四月 京都大学大学院文学研究科国史学専攻博士課程前期課程入学
- 一九八五年三月 同修了
- 一九八五年四月 同博士課程後期課程進学
- 一九八八年三月 同指導認定退学
- 一九九八年三月 京都大学より博士（文学）の学位を授与される

職歴

- 一九八七年四月 冷泉家時雨亭文庫目録調査員
- 一九九三年四月 摂南大学国際言語文化学部助教
- 二〇〇三年四月 同教授
- 二〇〇五年四月 摂南大学外国語学部教授（学部名変更による）

この間、立命館大学文学部、京都教育大学、大阪外国語大学（現大阪大学外国語学部）、京都大学医療技術短期大学部（現京都大学医学部人間健康科学科）、花園大学文学部、関西学院大学文学部に出講。

二〇一二年四月 立命館大学文学部日本史研究学域教授

二〇一三年度後期専攻主任 二〇一四年度後期学域長 二〇一五年度前後期専攻主任

二〇一六年度前期学域長 二〇一七年度後期専攻主任 二〇一八年度前期学域長

二〇一九年度後期専攻主任

この間、京都大学大学院文学研究科に出講。ケンブリッジ大学 FAMS (アジア中東学科) 客員研究員。

学会役員

京都大学文学部史学研究会『史林』編集委員、日本史研究会研究委員、同編集委員、同編集委員長、日本古文書学会評議員、同監事、同理事(現任)、
京都大学文学部史学研究会評議員(現任)などを歴任。

諸組織委員

新修彦根市史委員、寝屋川市史委員、朝日新聞社冷泉家時雨亭叢書編集委員など。

主要研究業績

単著

『院政の研究』臨川書店、一九九六年十一月

『白河法皇中世をひらいた帝王』(NHKブックス) 日本放送出版協会、二〇〇三年六月(二〇一三年四月角川学芸出版より文庫化)

『院政 もうひとつの天皇制』(中公新書) 中央公論新社、二〇〇六年一〇月

『後白河天皇 日本第一の大天狗』ミネルヴァ書房、二〇一五年二月

『後三条天皇 中世の基礎を築いた君主』山川出版社、二〇一六年九月

『公卿会議 論戦する宮廷貴族たち』(中公新書) 中央公論新社、二〇一八年一〇月

『院政 もうひとつの天皇制 増補版』(中公新書) 中央公論新社、二〇二一年四月

編共著

『摂関政治から院政へ』（京都の中世史二）プロローグ、第一章、第五章、エピローグ
（第六章佐古愛己、第七章辻浩和）吉川弘文館、二〇二二年二月

共著・雑誌論文

- 「関東申次と院伝奏の成立と展開」『史林』六七―三、一九八四年五月、『院政の研究』に収録
「公卿議定制から見る院政の成立」『史林』六九―四、一九八六年七月、『院政の研究』に収録
「院政における政治構造」『日本史研究』三〇七、一九八八年三月、『院政の研究』に収録
「院政と平氏政権の関係はどうなっていたか」（『争点日本の歴史四 中世編』新人物往来社、一九九二年二月所収）
「院政をめぐる公卿議定制の展開―在宅諮問・議奏公卿・院評定制―」『日本史研究』三四八、一九九一年八月、『院政の研究』に収録
「公卿議定制の類型とその性格―坂本賞三・安原功両氏の批判にこたえて―」『史林』七四―六、一九九一年一月、『院政の研究』に収録
「研究史上の後白河院」（『古代学協会編 後白河院』吉川弘文館、一九九三年三月所収、一部が『院政の研究』に収録）
「院政と平氏政権を説明する」（『新視点日本の歴史』四、新人物往来社、一九九三年六月所収）
「平安時代の政務とその変遷」『古代文化』四六―一、一九九四年一月、『院政の研究』に収録
「平氏政権の意図したもの」（『歴史群像シリーズ 平清盛』学習研究社、一九九四年一月所収）
「寺社問題から見る院政の成立」（『上横手雅敬監修、井上満郎・杉橋隆夫編集 古代・中世の政治と文化』思文閣出版、一九九四年四月所収、『院政の研究』に収録）
「建武政権の前提としての公卿会議―「合議と専制」論をめぐる―」（『大山喬平教授退官記念会編 日本国家の史的特質』古代・中世、思文閣出版、一九九七年五月所収）
「鳥羽殿と院政」『日本史研究』四六〇、二〇〇〇年十二月
「平安時代における王の系譜と政治―保立道久『平安王朝』を読む―」（『系図をよむ 地図をよむ 物語時空論』（叢書 想像する平安文学：第七卷）勉誠出版、二〇〇一年所収）
「鳥羽殿の成立」（『上横手雅敬編 中世公武権力の構造と展開』吉川弘文館、二〇〇一年八月所収）
「定家と『明月記』」『茶道雑誌』六六―二、二〇〇二年二月
「中世成立期の京都―権門都市の成立―」『日本史研究』四七六、二〇〇二年四月
「貴族たちの見た院と天皇」（『王を巡る視線』岩波講座 天皇と王権を考える一〇）岩波書店、二〇〇二年十一月

- 「京・白河・鳥羽 院政期の都市」(元木泰雄編『院政の展開と内乱』(日本の時代史七) 吉川弘文館、二〇〇二年二月所収)
- 「崇徳院生誕問題の歴史的背景」『古代文化』五六―一〇、二〇〇四年一月
- 「後三条天皇 中世最初の帝王」(元木泰雄編『王朝の変容と武者』(古代の人物六) 清文堂、二〇〇五年六月所収)
- 「鳥羽殿と院政」(高橋昌明編『院政期の内裏・大内裏と院御所』文理閣、二〇〇六年六月所収、『日本史研究』四六〇の再録)
- 「院政と伏見」伏見稻荷大社『朱』五一、二〇〇八年二月
- 「折本と折紙―冷泉家時雨亭文庫蔵『朝儀諸次第』をめぐって―」『古文書研究』六五、二〇〇八年五月
- 「会議の日本史―古代から中世まで」『中央公論』一二三―一九、二〇〇八年九月
- 「上皇と院政―なぜ退位した天皇が権力をもつことができたか―」(近藤成一、ロベルト・ホレス、小路田泰直、デトレス・タランチェフスキ編『中世 日本と西欧―多極と分権の時代―』吉川弘文館、二〇〇九年八月所収)
- 「院政期の京都と白河・鳥羽」(西山良平・鈴木久男編『恒久の都平安京』(古代の都三) 吉川弘文館、二〇一〇年一〇月所収)
- 「中世前期の京都―その領域変化と特質―」(中世都市研究会編『都市のかたち―権力と領域―』(中世都市研究一六) 山川出版社、二〇一一年九月所収)
- 「『明月記』(藤原定家)―激動を生きぬいた、したたかな歌人」(元木泰雄・松蘭齊『日記で読む日本中世史』ミネルヴァ書房、二〇一一年一月所収)
- 「橋本義彦『平安貴族社会の研究』をどう読んできたか」『日本史研究』五九一、二〇一一年一月
- 「後白河院政と文化・外交―蓮華王院宝蔵をめぐって―」『立命館文学』六二四、二〇一二年一月
- 「特集史論 古代から中世への転換点 院政とはなにか」『歴史読本』五七―五、二〇一二年五月
- 「市沢著書から見た鎌倉期政治史の現状と課題」『歴史科学』二二二、二〇一三年五月
- 「王権と文化」(『週刊朝日百科 週刊日本の歴史 平安時代六 平氏政権の可能性』二〇一三年一月所収)
- 「藤原長家とその周辺」『しぐれ』一二八、二〇一四年四月
- 「文治三年十月九日源頼朝書状」『歴史読本』五九―九、二〇一四年七月
- 「後鳥羽院―万能の君の陥穽」(平雅行編『公武権力の変容と仏教界』(中世の人物 京・鎌倉の時代編 第三卷) 清文堂、二〇一四年七月所収)
- 「中世天皇の退位・讓位」『日本歴史』八四〇、二〇一八年六月
- 「摂関政治と陣定」『立命館文学』六六〇、二〇一九年二月
- 「前近代の「天皇退位」をめぐる論点の整理」『歴史評論』八三五、二〇一九年一月
- 「院政期の朝廷政務」『京都女子大学宗教・文化研究所研究紀要』三四、二〇二一年三月
- 「院政・平氏政権と中世王権」(西山良平・勝山清次編『日本の歴史 古代・中世編』ミネルヴァ書房、二〇二一年六月所収)

書評・解題・自治体史、その他

- 紹介 森茂暁著『南北朝公武関係史の研究』『史林』六九―三、一九八六年五月
書評 五味文彦著『中世のことばと絵―絵巻は訴える』『史林』七五―四、一九九二年七月
「冷泉家に遺されたある没落貴族の系図」『しぐれてい』四三、一九九三年一月
冷泉家時雨亭叢書『豊後国風土記 公卿補任』解題（村井康彦・藤本孝一氏と共著）朝日新聞社、一九九五年五月
「鎌倉期公家政権の機構」『日本中世史研究事典』東京堂出版、一九九五年六月
「陣定―公卿議定制の展開―」『日本古代史研究事典』東京堂出版、一九九五年九月
書評 本郷和人著『中世朝廷訴訟の研究』『歴史学研究』六八八、一九九六年九月
冷泉家時雨亭叢書『朝儀諸次第 一』解題（中村利則・藤本孝一氏と共著）朝日新聞社、一九九七年二月
冷泉家時雨亭叢書『明月記 三』解題（藤本孝一氏と共著）朝日新聞社、一九九八年四月
冷泉家時雨亭叢書『古記録集』解題（村井康彦氏と共著）朝日新聞社、一九九九年四月
「一九九八年の歴史学界―回顧と展望―日本中世政治史」『史学雑誌』一〇八―五、一九九九年五月
冷泉家時雨亭叢書『朝儀諸次第 二』解題（中村利則・藤本孝一氏と共著）朝日新聞社、一九九九年六月
「本年度重要文化財指定 朝儀次第書」『しぐれてい』六九、一九九九年七月
「藤原定家『明月記』にみる有馬の湯」『日本歴史地名大系 歴史地名通信』四一、一九九九年一〇月
「時雨亭文庫の『明月記』 国宝指定をめぐる」『しぐれてい』七三、二〇〇〇年七月
冷泉家時雨亭叢書『明月記 四』解題（藤本孝一氏と共著）朝日新聞社、二〇〇〇年八月
「公卿補任」（『国史大系書目解題下』吉川弘文館、二〇〇一年一月所収）
書評 元木泰雄著『藤原忠実』『人環フォーラム』、二〇〇一年三月
『新修彦根市史 第五卷史料編 古代・中世』平安時代、彦根市、二〇〇一年三月
冷泉家時雨亭叢書『朝儀諸次第 三』解題（中村利則・藤本孝一氏と共著）朝日新聞社、二〇〇一年八月
書評 川端新著『荘園制成立史の研究』『史学雑誌』一一一―一、二〇〇二年一月
冷泉家時雨亭叢書『明月記 五』解題（藤本孝一氏と共著）朝日新聞社、二〇〇三年二月
冷泉家時雨亭叢書『朝儀諸次第 四』解題（中村利則・藤本孝一氏と共著）朝日新聞社、二〇〇四年四月
「明月記と貴族の日記」（『京都冷泉家『国宝明月記』図録』二〇〇四年一〇月）
「朝儀諸次第をめぐる」その一 卷子本と苦闘する」『冷泉家時雨亭叢書月報』六四、二〇〇五年二月

- 『寝屋川市史 第三卷 古代・中世史料編』中世史料編編集、寝屋川市、二〇〇五年三月
- 〔朝儀諸次第をめぐって その二 ドラマに描かれた貴族社会〕『冷泉家時雨亭叢書月報』六五、二〇〇五年四月
- 〔朝儀諸次第をめぐって その三 二つの虚構―殿下乗合事件をめぐって―〕『冷泉家時雨亭叢書月報』六六、二〇〇五年六月
- 〔朝儀諸次第をめぐって その四 固関とは(一)〕『冷泉家時雨亭叢書月報』六七、二〇〇五年八月
- 〔朝儀諸次第をめぐって その五 固関とは(二)〕『冷泉家時雨亭叢書月報』六八、二〇〇五年十二月
- 〔朝儀諸次第をめぐって その六 折るといふこと(一)〕『冷泉家時雨亭叢書月報』六九、二〇〇六年二月
- 〔朝儀諸次第をめぐって その七 折るといふこと(二)〕『冷泉家時雨亭叢書月報』七〇、二〇〇六年四月
- 〔朝儀諸次第をめぐって その八 折るといふこと(三)〕『冷泉家時雨亭叢書月報』七一、二〇〇六年六月
- 〔朝儀諸次第をめぐって その九 折るといふこと(四)〕『冷泉家時雨亭叢書月報』七二、二〇〇六年八月
- 〔朝儀諸次第をめぐって その十 実務官人の世界(一)〕『冷泉家時雨亭叢書月報』七三、二〇〇六年十二月
- 『新修彦根市史 第一巻通史編 古代・中世』五章、彦根市、二〇〇七年一月
- 〔朝儀諸次第をめぐって その十一 実務官人の世界(二)〕『冷泉家時雨亭叢書月報』七四、二〇〇七年二月
- 〔朝儀諸次第をめぐって その十二 実務官人の世界(三)〕『冷泉家時雨亭叢書月報』七五、二〇〇七年四月
- 〔朝儀諸次第をめぐって その十三 実務官人の世界(四)〕『冷泉家時雨亭叢書月報』七六、二〇〇七年六月
- 〔朝儀諸次第をめぐって その十四 実務官人の世界(五)〕『冷泉家時雨亭叢書月報』七七、二〇〇七年八月
- 〔朝儀諸次第をめぐって その十五 実務官人の世界(六)〕『冷泉家時雨亭叢書月報』七八、二〇〇七年十二月
- 〔朝儀諸次第をめぐって その十六 実務官人の世界(七)〕『冷泉家時雨亭叢書月報』七九、二〇〇八年二月
- 『寝屋川市史 第一〇巻 本文編』古代第三章第四節、中世第一章第一―三節、第二章第一、二節、第三章第一節、寝屋川市、二〇〇八年三月
- 〔朝儀諸次第をめぐって その十七 実務官人の世界(八)〕『冷泉家時雨亭叢書月報』八〇、二〇〇八年四月
- 〔朝儀諸次第をめぐって その十八 実務官人の世界(九)〕『冷泉家時雨亭叢書月報』八一、二〇〇八年六月
- 〔朝儀諸次第をめぐって その十九 儀式と政務の空間(一)〕『冷泉家時雨亭叢書月報』八二、二〇〇八年八月
- 〔朝儀諸次第をめぐって その二十 儀式と政務の空間(二)〕『冷泉家時雨亭叢書月報』八三、二〇〇八年十二月
- 〔朝儀諸次第をめぐって 最終回 儀式と政務の空間(三)〕『冷泉家時雨亭叢書月報』八四、二〇〇九年二月
- 書評 丸山仁著『院政期の王家と御願寺―造営事業と社会変動―』『史学雑誌』一一八―七、二〇〇九年七月
- 書評 藤本孝一著『中世史料学叢論』『古代文化』六二―一、二〇一〇年六月
- 書評 山田邦和著『京都市史の研究』『歴史評論』七三六、二〇一一年八月

書評 栗山圭子著『中世王家の成立と院政』『女性史学』二三、二〇一三年

「二〇一二年度の歴史学界―回顧と展望―中世―総論・史料」『史学雑誌』一二二―五、二〇一三年五月

「清盛・平家とその時代 第一章 清盛の生きた時代①平安時代末期の京都―平清盛の育った都市」『京都民報』二〇一二年一月一五日

「清盛・平家とその時代 第一章 清盛の生きた時代②院政とは何か」『京都民報』二〇一二年一月二二日

「清盛・平家とその時代 第一章 清盛の生きた時代③祖父正盛の登場」『京都民報』二〇一二年一月二九日

「清盛・平家とその時代 第一章 清盛の生きた時代④院近臣の立場と清盛落胤説」『京都民報』二〇一二年二月七日

「崇徳上皇出生の謎は真実か」『京都新聞』二〇一二年二月二七日

「大河ドラマの真実「皇子」の噂は清盛自身から」『産経新聞』二〇一二年六月五日

書評 山田邦和著『日本中世の首都と王権都市―京都・嵯峨・福原―』『京都民報』二〇一二年八月二六日

書評 高橋昌明著『平家と六波羅幕府』『京都民報』二〇一三年四月二八日

「平安後期の都市 京都」『創造する市民』一〇一、二〇一三年七月

書評 高橋昌明著『平家と六波羅幕府』『新しい歴史学のために』二八五、二〇一四年一〇月

書評 高橋昌明著『武士の日本史』『京都民報』二〇一八年六月二四日

取材記事「定家による古典写本の意味」『京都新聞』二〇一九年一〇月二五日

取材記事「史書を訪ねて 愚管抄 崇徳敗れ武者の世招く」『読売新聞』二〇一九年一月二六日

「解説 貴族政治制度史研究の極致」(橋本義彦著『平安貴族』平凡社、二〇二〇年五月所収)

「源頼朝書状」(日本古文書学会編『古文書学への招待』勉誠出版、二〇二二年二月所収)

書評 高橋昌明著『都鄙大乱「源平合戦」の真実』『京都民報』二〇二二年二月二六日

「道長のふたりの妻」『本郷』吉川弘文館、二〇二二年一月

口頭学会発表(主たるものに限る)

「鎌倉期公家政権に関する一考察―伝奏・関東申次を中心に―」(日本史研究会中世史部会、一九八二年四月)

「院政における公卿議定について」(日本史研究会中世史部会、一九八五年四月)

「議奏公卿制について」(日本古文書学会第一九回学術大会、一九八六年七月六日)

「院政における政治構造」(日本史研究会一九八七年度大会、一九八七年一月一五日)

「佐藤進一氏の「合議と専制」論をめぐって」(読史会大会、一九九五年一月)

- 「鳥羽殿と院政」(第一〇回平安京、京都研究集会 シンポジウム『鳥羽殿をめぐる歴史空間―政治・交通・文化―』、一九九九年二月二三日)
- 「中世成立期の京都」(日本史研究会二〇〇一年度大会 シンポジウム、二〇〇一年一月)
- 「上皇と院政―なぜ退位した天皇が権力をもつことができたのか―」(国際会議『中世 多極と分離の時代―日本では?そして西欧では? ドイツ・ボン大学、二〇〇四年二月一七日)
- 「中世前期の京都―その領域変化と特質―」(中都市史研究会第一六回研究集会『都市のかたち』岩手県平泉町、二〇一〇年九月五日)
- 「市沢著書から見た鎌倉期政治史の現状と課題」(大阪歴史科学協議会二〇一二年三月例会、三月二二日)
- 「日本の中世都市の構造―政治と文化・宗教」(日本学術振興会『頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム』シンポジウム 大阪市立大学文学部創設六〇年記念 東アジア都市における集団とネットワーク―伝統都市から近代都史への文化的転回―、二〇一三年二月六日)
- 「天皇の譲位の歴史」(ケンブリッジ日本人会例会、英国ケンブリッジ大学、二〇一七年二月五日)
- 「天皇の譲位の歴史」(十色会 Cambridge university Japanese interdisciplinary Forum 英国ケンブリッジ大学、二〇一七年三月一八日)
- 「国際コミュニケーションの意味Ⅲ:天皇退位の意味をどう世界に語るのか―日本中世史研究者の祝座」(愛知大学国際コミュニケーション研究科開設一五周年記念ワークショップ「国際コミュニケーションの意味」、二〇一八年一月二七日)
- 「藤原定家と中世貴族社会」(ケンブリッジ日本人会例会 Zoomにて日本と英国結ぶ、二〇二〇年一月一日)
- 「貴族はいかにして生き残ったか―俊成・定家と冷泉家―」(国際日本文化研究センター共同研究『貴族とは何か、武士とは何か』、二〇二二年一月九日)